

くすりのしおり

内服剤

2022年12月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：ミノマイシン顆粒 2%

主成分：ミノサイクリン塩酸塩 (Minocycline hydrochloride)

剤形：淡橙色の顆粒剤

シート記載など：



この薬の作用と効果について

テトラサイクリン系の抗生物質で、細菌が増殖するために必要な蛋白質の合成を阻害することによって抗菌作用を示します。

通常、皮膚科、呼吸器、耳鼻科、歯科領域など広い範囲の感染症の治療に使用されます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。食事または口から摂取する栄養を十分にとれていない、全身状態が悪い。腎機能障害、肝機能障害がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、小児は1日体重1kgあたり0.1～0.2g〔主成分として2～4mg（力価）〕を1～2回に分けて12あるいは24時間ごとに顆粒のまま服用します。年齢・症状によって適宜増減されます。飲むときに水を加えてシロップ状にしても服用できます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・水を加えてシロップ状にした場合は、直ちに服用してください。
- ・飲み忘れた場合は、気がついたときにできるだけ早く1回分を飲んでください。ただし、次の通常飲む時間が近い場合は、忘れた分は飲まないで1回分を飛ばしてください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。肝障害（疲れやすい、全身けん怠感、力が入らない、吐き気、食欲不振）などがあらわれる可能性があります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、使用を中止し、ただちに医師に連絡してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・めまい感があらわれることがありますので、自動車の運転などの危険を伴う機械の操作および高所での作業などは行わないでください。
- ・自己免疫性肝炎（全身けん怠感、吐き気、嘔吐、食欲不振、発熱、上腹部痛、皮膚や白目が黄色くなる、かゆみ、尿の色が濃くなる）、血液障害（発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきの出血、あおざがでる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸、息切れ）、急性腎障害（尿量が減る、むくみ、全身けん怠感）、間質性腎炎（発熱、発疹、関節痛、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、むくみ、尿量が減る）があらわれることがありますので、この薬の使用中は定期的に検査が行われます。その場合には、指定された日時に検査を受けてください。
- ・小児（特に8歳未満の小児）が使用した場合、歯の着色・エナメル質形成不全や骨の発育不全を起こすことがありますので、保護者は何か変だなど感じた場合には、すぐに、医師または薬剤師に連絡してください。
- ・服用中に尿が黄褐～茶褐色、緑、青に変色したとの報告があります。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、吐き気、食欲不振などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・不快感・口内異常感、呼吸困難、意識障害 [ショック、アナフィラキシー]
- ・体重減少、関節痛、筋肉痛、しびれ [結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎]
- ・発熱、紅斑・かゆみ、眼充血 [中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑、剥脱性皮膚炎]
- ・発疹、発熱、リンパ節腫脹 [薬剤性過敏症症候群]
- ・全身けん怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる [重篤な肝機能障害]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、光、湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。